

引

二年 画数 4
筆順 コ 弓 引
オン イン
クン ひりくひける



「引」のかたちをあらわした「弓」という字と、弓の「弦」のかたちをあらわした「丨」をくみあわせた字で、「弓に弦をかける」ことをあらわしたものです。

弓は、ふだんは弦をはずしていて、「弓を引く」ときに「弓に弦をかける」のです。

だから、この字は「弓を引く」ことをあらわします。

いまは、弓にかぎらず、「ひく」といういみのことばをあらわすのにつかいます。

また、「引きのばす」「引き入れる」「引きうける」「引っこむ」といういみにもつかわれます。

使い方

- ▽ ニュートンはリンゴがおちるのを見て、ちきゅうの引力をはっけんしました。
- ▽ 太田先生に引率おほなされて、えんそくにいききました。
- ▽ ごんべえさんが、いものつるを引っぱると、大きなもがずると出てきました。
- ▽ うんどうかいで、つな引きをしました。赤ぐみと白ぐみにわかれて、力いっぱい引きました。わたしのくみは赤ぐみで、白ぐみにかちました。

熟語例

- ▽ 引力イリョク（引っぱる力。とくに、ものともものが、おたがいに、引っぱりあう力をいいます。）
- ▽ 引率イソツ（引きつれていくこと。）
- ▽ 引用イヨウ（じぶんがかいているぶんしょうに、ほかの人のかいたぶんしょうなどを引いてかき入れること。）
- ▽ 我田引水ガタインスイ（もとのいみは、じぶんの田んぼに、水を引き入れること。そこから、じぶんにつごうのいいように、いったりやったりすることをいうようになりました。）

羽

二年 画数 6
筆順 弓 习 羽
オン ウ
クン はね・は

成り立ち



鳥の羽のかたちをあらわした字です。

「鳥の羽」といういみの字ですが、鳥にかぎらず、虫の羽でも、また、羽のかたちをしたものなら、なんでも羽といいます。例せんぷうきの羽。

使い方

- ▽ ゆうべは、蚊の羽音がうるさくて、ねむれなかった。
- ▽ この鳥の羽毛はまつしろです。
- ▽ 『天女の羽衣』というお話があります。むかし、ある所にきれいなみずうみがあつて、そこに天女がまいおりに、水あびをしました。そのとき、羽衣をぬいで、木にかけておいたのを、近くで見ていた若者がとってしまいました。天女は羽衣がなくなったので、天にかえれなくなりました。

熟語例

- ▽ 羽音はねね（鳥や虫がとぶときの、羽の音。）
- ▽ 羽毛うも（鳥の羽。はねげ）
- ▽ 羽衣はねころも（鳥の羽でつくった衣服で、天女が着て、空をとぶといわれます。）
- ▽ 尾羽おしはね（鳥の尾と羽。「尾羽打ち枯らしたすがた」といえば、おちぶれて、身なりのみすばらしいかつこうのことです。）